

個性が輝く“ひと・まち・暮らし”づくり
We innovate together

中央ろうきん助成プログラム



中央ろうきん社会貢献基金 (中央労働金庫)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5

フリーダイヤル：0120-86-6956



<中央ろうきん>は、次世代育成支援対策推進法(次世代法)で定める認定基準により、子供を育てやすい環境づくりに取り組む企業として、東京労働局より「2008年度認定事業主」として認定されました。



この冊子は古紙配合率100%の再生紙および大豆油インキを使用しています。

2013年選考結果

ごあいさつ

未来の財産となる「ひと」を育て、魅力的で住みよい「まち」をつくり、多様な生きかたを認め合う「暮らし」を実現する活動を応援したい。そうした思いから、2002年に「中央ろうきん助成プログラム」をスタートしました。

このプログラムは、関東エリア1都7県を対象に、それぞれの地域で活動しているボランティアグループや市民団体の活動に必要な財源を助成するもので、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドとの協力のもとに企画・運営を行っています。

「ひと」が、それぞれの地域で喜びと誇りを持って働き、活動し、共にいきる。ろうきん理念は共生社会の実現に寄与することを目的としています。

今年4月、2013年の選考作業を無事終了することができました。

中央ろうきんをご利用いただいている皆さまへの感謝の気持ちと、一人でも多くの方に「中央ろうきん助成プログラム」の趣旨を知っていただき、そして、ご活用いただきたいという思いから、本冊子「2013年選考結果」を作成いたしました。

心をこめて、皆さまにご報告させていただきます。



「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・暮らし”づくり」は、市民活動の促進をめざして取組む中央労働金庫（中央ろうきん）の社会貢献活動です。

今年は、応募件数288件の中から55件、助成総額1,971万円（内訳：スタート助成50件 助成総額1,474万円、ステップアップ助成5件 助成総額497万円）が、選考委員会による審査の結果、助成対象として選ばれました。

● 本プログラムの対象分野

下記の3分野を対象としています（複数の分野にわたって取り組む活動も含まれます）。

1 ひとづくり

未来をになう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動など

2 まちづくり

生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動など

3 暮らしづくり

地域に生きる人が、さまざまな障がいや困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動など

● 重視する活動

1

自らの地域をよりよくするために、さまざまな人が自発的に参加する活動

2

はたらく人が、自らの経験を活かして参加する活動

3

地域のさまざまな団体が連携し、参加する活動

● 選考委員会

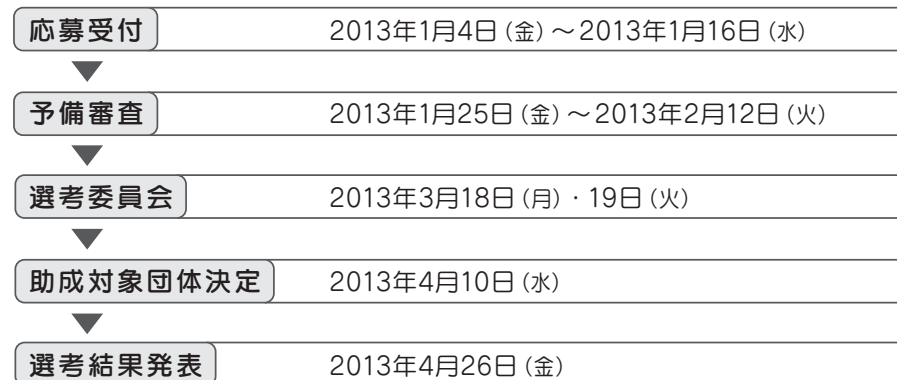
※敬称略 所属名は選考委員会開催時点（2013年3月）

- 選考委員長 赤塚 光子 （特定非営利活動法人全国障害者生活支援研究会 会長 / 元立教大学 教授）
- 選考委員 遠藤 幸男 （東京労働者福祉協議会 会長）
- 選考委員 徳田 太郎 （つくば市民大学（ユニベルシタスつくば） 代表幹事）
- 選考委員 星野 智子 （一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事）
- 選考委員 吉野 裕之 （一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団 チーフ・プログラム・オフィサー）
- 選考委員 岩村 真奈美 （中央労働金庫 総合企画部CSR企画 チーフマネージャー）

● 予備審査

- | | | | |
|-------|------------------------------|---|--------------|
| （茨城） | 特定非営利活動法人ひたちNPOセンター・with you | / | 中央労働金庫茨城県本部 |
| （栃木） | 特定非営利活動法人ハイジ | / | 中央労働金庫栃木県本部 |
| （群馬） | 群馬NPO協議会 | / | 中央労働金庫群馬県本部 |
| （埼玉） | 特定非営利活動法人さいたまNPOセンター | / | 中央労働金庫埼玉県本部 |
| （千葉） | 特定非営利活動法人まちづくりサポートひと・まち倶楽部 | / | 中央労働金庫千葉県本部 |
| （東京） | 東京ボランティア・市民活動センター | / | 中央労働金庫東京都本部 |
| （神奈川） | 特定非営利活動法人ぐらす・かわさき | / | 中央労働金庫神奈川県本部 |
| （山梨） | 特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会 | / | 中央労働金庫山梨県本部 |

<2013年中央ろうきん助成プログラム>



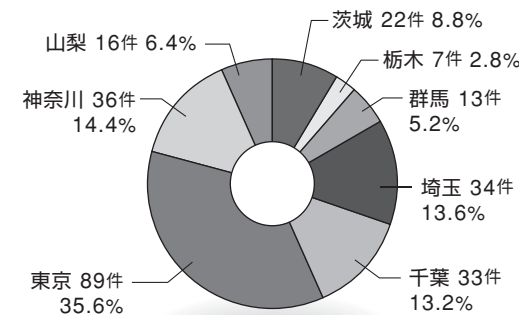
2013年助成の 選考について



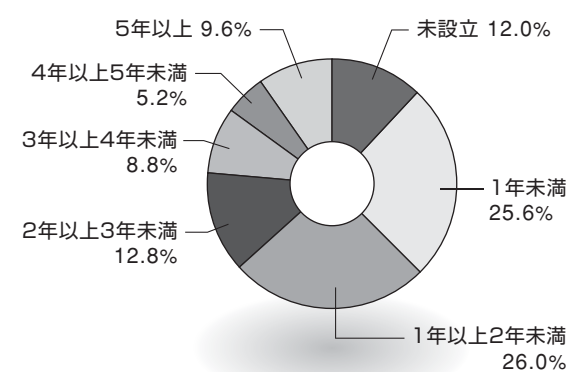
選考委員長による選後評

選考委員長 赤塚 光子 (特定非営利活動法人全国障害者生活支援研究会 会長 / 元立教大学 教授)

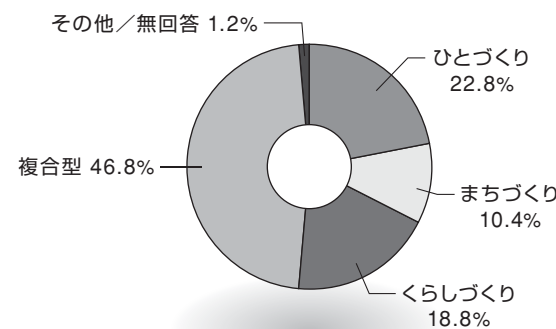
<地域別応募状況>



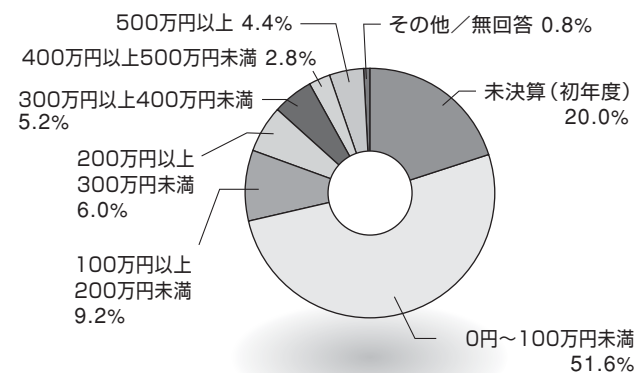
<応募団体の活動年数>



<活動分野別応募状況>



<応募団体の支出規模>



[分類]

- ひとづくり
未来をにう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動 など
- まちづくり
生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動 など
- くらしづくり
地域に生きる人が、さまざまな障害や困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動 など
- 複合型
他分野との複合により、上記1~3の分野に関連する活動 など

●都県別の応募数・本審査対象数・選考結果

都県名	スタート助成・1年目			スタート助成・2年目			スタート助成・3年目			ステップアップ助成			採択数 合計
	応募	本審	結果	応募	本審	結果	応募	本審	結果	応募	本審	結果	
茨城	22	8	4	1	1	1	1	1	1	1	1	0	6
栃木	7	4	2	1	1	1	1	1	1	2	2	2	6
群馬	13	6	2	2	2	1	0	0	0	1	1	1	4
埼玉	34	13	5	4	4	1	1	1	0	1	1	1	7
千葉	33	11	5	3	3	2	2	1	0	0	0	0	7
東京	89	14	6	3	3	3	2	2	2	1	1	0	11
神奈川	36	10	4	4	4	3	1	1	0	1	1	1	8
山梨	16	5	3	3	3	2	2	1	1	0	0	0	6
合計	250	71	31	21	21	14	10	8	5	7	7	5	55

中央ろうきん助成プログラムは、 やさしく暖かいまちをつくる先導役!

「個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」を応援する中央ろうきん助成プログラムに、今年も多くのご応募をいただきました。1都7県からの応募総数は、昨年を上回る288件。2012年からスタート助成1年目の対象を「おおむね団体設立から5年未満、支出規模500万円未満」と定めたのは、「市民活動の新しい芽を育てるプログラムとしてより効果的な助成をする」ためでしたが、この趣旨を理解していただいていたことに安心しました。

本審査の対象は107件で、その内訳は、スタート助成1年目が71件、2年目が21件、そして3年目が8件、ステップアップ助成が7件でした。選考委員は、107件の応募資料をしっかりと読み込み、また3年目助成とステップアップ助成については、プレゼンテーションと質疑の時間を加え、丁寧な審査を行いました。選考委員会においては、各委員の多面的な視点からの意見を十分に協議し、助成対象として55件を決定いたしました。応募された団体のそれぞれの取組みは、「個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」に貢献するに十分なテーマや内容であり、今年の審査も至難なものでした。

その上で、今年の審査でかなり議論された内容について、皆さまにもお考えいただきたいことを、数点に絞ってここで挙げたいと思います。

- これまでに取組みがなかったと思われる新しいテーマへのチャレンジは、大いに歓迎した

い。そこにも課題が確かに存在する限り、新しさやテーマゆえの難しさがあっても、社会的認知を図ることも助成プログラムの役割と認識し、その活動を応援したい。

- すでに他で取組まれているテーマで活動するときには、オリジナリティがほしい。団体の構成メンバーや地域性などからも、独自性があることが当然のはずである。その課題をその地域で行うことの意味、どこにスポットをあてるか、地域にどのように定着させていくかなどをしっかりと検討して活動を組み立ててほしい。
- 団体の取組みが、地域に根付いた活動となることを望みたい。関係する組織、団体などとの連携体制を作っていくことが重要である。相互の活動がつながり、人がつながっていく広がりの中で、市民活動が地域全体を動かす原動力となることを期待したい。
- これまで支援の対象であった人たち(当事者、受け手)が、「ともに」活動に参加したり、支援する側になったりする取組みの応募が複数あったことから、「ともに」や「当事者が支援する」ことは、これからの取組みのキーワードの一つになっていこう。

中央ろうきん助成プログラムには、誰もが、やさしさや暖かさなどを実感できるまちづくりを先導していく役割があります。誠実に、そして力を惜しまずに取組みを進める皆さまの活動を、これからも精一杯応援していきます。

2013年助成対象一覧

<スタート助成・1年目：31件> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
茨城	“人がつながる”ための仕掛けとしての「まちなかイベント」の企画・実施	プロジェクト土浦力	猪股登志子	土浦市	30万円
茨城	結城をつむぐ～見世蔵・空きスペースマッチングシステム構想～	結いプロジェクト	飯野 勝智	結城市	30万円
茨城	自然の環からひとつの和とまちづくりの輪につなげよう!	特定非営利活動法人 ネイチャークラブにいはい	立川 周二	土浦市 新治地区	30万円
茨城	古民家「華の幹」の再生からはじめる筑波山麓活性化モデル事業	小田古民家再生保存の会 “華の幹”	飯塚 洋子	つくば市	30万円
栃木	日本語でつながるココロの輪 (外国籍市民への日本語支援)	にほんご Friendly Class	柿沼 亮子	鹿沼市	30万円
栃木	ステンドグラスワークショップを通じた障がい者と地域住民の相互交流	特定非営利活動法人地域生活相互支援 大山田ノンフェール・くらねえ	野毛 一起	那珂川町	27万円
群馬	コミュニティで身体も心も健康に 「ご近所縁側サロン」	特定非営利活動法人 ホワイトベル	星野まり子	高崎市江木町	30万円
群馬	授業料無料のボランティア学習塾	学習塾HOPE	遠藤 善則	高崎市下小 高町	30万円
埼玉	農業ボランティアと福祉施設への食材支援を行う「農・福支援活動」	特定非営利活動法人 農家支援倶楽部	武田 篤	久喜市周辺 地域	30万円
埼玉	元当事者による、夜の世界の仕事で働く女性達へのセカンドキャリア相談事業	一般社団法人 GrowAsPeople	角間惇一郎	さいたま市、 越谷市、川口市、 東京23区	29万円
埼玉	父親視点からの発達障がい児・者への自立・就労に向けたイベント開催事業	特定非営利活動法人 おやじりんく	金子 訓隆	埼玉県、茨城 県、栃木県他	30万円
埼玉	青少年多文化学び教室	青少年多文化学びサポート	持丸 邦子	所沢市およ び近隣地域	30万円
埼玉	レンゲの田んぼを広げよう! 羽生休耕田復活プロジェクト	特定非営利活動法人 雨読晴耕村舎	後藤 雅浩	羽生市	30万円
千葉	プレーパークからはじまる3世代が輝く地域コミュニティ	成田おむすびプレーパーク	小川奈緒子	成田市	30万円
千葉	世代を超えた交流を生むワークショップ・勉強会の定期開催	柏の葉サイエンスエデュ ケーションラボ	羽村 太雅	柏市	30万円
千葉	シャンテ～あなたが歌う～コンサート	特定非営利活動法人歌のボラ ンティア・いちかわシャンテ	小澤 眞弓	市川市、 浦安市	29万円
千葉	ハート to ハート ーリフレッシュキャンプ 2013ー	ハート to ハート	藤代 眞弓	千葉県	24万円
千葉	世代・障がいを超えて気づき学びあう 「大学生ギアチェンジ・プログラム」	CHIEの輪	阿部 剛	松戸市	28万円
東京	キネマフューチャーセンター@キネマ通り商店街	特定非営利活動法人 ワップフィルム	高橋 和勸	大田区東蒲田 キネマ通り	30万円
東京	血の繋がりを越えた絆づくり ～新しい家族の在り方～	M-step	平田 えり	三鷹市、 足立区	29万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
21 東京	若年認知症本人と家族を対象とした交流会事業	若年認知症交流会 小さな旅人たちの会	高橋恵美子	中野区	30万円
22 東京	世代間交流ホームシェア事業	特定非営利活動法人 リブ&リブ	石橋 鉄子	東京都全域 (首都圏)	30万円
23 東京	誰もが輝くアートによる交流の場	サクラティーズ	池原 弘和	北区、文京 区、豊島区	30万円
24 東京	自転車タクシーを活用した高齢者等の外出応援プロジェクト	特定非営利活動法人 みらくる	三好 義仁	葛飾区	28万円
25 神奈川	土・水・草・いきものとたくましく遊んで、親子で育ち合う	青空自主保育 べんべんぐさ	井上 香織	横浜市青葉区	30万円
26 神奈川	空き店舗等を活用した起業支援～「場」と「人」の再生～	ひらがな商店街アートスペース 「と」まちづくりプロジェクト	今井 嘉江	横浜市	30万円
27 神奈川	働く人と地域をつなぐ～勤労者のための「社会貢献応援冊子」づくりと広報活動～	一般社団法人ソーシャル コーディネーターかながわ	松本 修一	神奈川県 全域	30万円
28 神奈川	海の環境教育 (地域の海の自然を知る授業)	特定非営利活動法人 ディスカバーブルー	水井 涼太	神奈川県	29万円
29 山梨	高齢ろうあ者いきいきサロン	特定非営利活動法人楽しく笑っ て人生を過ごす山梨手話の会	遠藤なおみ	山梨県全域	30万円
30 山梨	虐待防止・抑制に向けて～虐待や子育てに悩む保護者に対する支援事業～	山梨子ども虐待防止ネット チャイルドファーストやまなし	吉田利志美	山梨県全域	29万円
31 山梨	ひとり親家庭に対する自立支援	特定非営利活動法人山梨県ひとり親家 庭自立支援センターひとり親ネット	佐野 臣功	甲府市及び 周辺自治体	30万円
計					912万円



<スタート助成・2年目：14件> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 茨城	地域の文化遺産を保存活用する“守り人”育成事業	特定非営利活動法人“矢中の杜”の守り人	早川 公	つくば市	30万円
2 栃木	外国人児童生徒への学習支援、外国人青少年への支援	千の会	島袋 ジュリアナ	小山市	30万円
3 群馬	精神疾患等の当事者、家族および支援者のための自助活動「当事者研究会」	群馬当事者研究会 ピアリンク	柳 春海	群馬県、 埼玉県、 栃木県全域	30万円
4 埼玉	みんなで語る「おはなしの会」	特定非営利活動法人子育て ステーションたんぽぽ	内海 弘美	久喜市と その周辺地域	30万円
5 千葉	市川冒険あそびぼ	市川子どもの外遊びの会	和田 京子	市川市	30万円
6 千葉	いいおか津波を語り継ぐ (語り部・観光ボランティアの養成)	光と風キャンペーン実行委員会 「いいおか津波を語り継ぐ会」	渡邊 義美	旭市	30万円
7 東京	精神疾患がある方のための リカバリーカフェ	リカバリーキャラバン隊	中原さとみ	調布市、多摩市、 八王子市、稲城 市、日野市	23万円
8 東京	青梅で頑張る若者の活動の発掘・発信 をしながら、新たな若者をつなげる	民立おうめ楽校	池永 怜奈	青梅市	30万円
9 東京	発達凸凹な子どもとその親の幸せ プロジェクト	特定非営利活動法人発達凸凹 サポートデザインかたつむり	西村南海子	八王子市、 町田市、多摩市、 立川市	29万円
10 神奈川	不登校、外国籍など「教育弱者」への 学習支援活動	学びのひろば「よいしょ」	本間 利夫	横浜市	30万円
11 神奈川	地域に共に生きる外国人たちの安心 して自立した生活へのサポート事業	ひまわりの会	伊藤 真	神奈川県全域、 横浜市中心	30万円
12 神奈川	コミュニティカフェを基盤とした生き 難さを抱える人たちの支援の場づくり	特定非営利活動法人 スペースナナ	柴田 暁子	横浜市	30万円
13 山梨	太陽の力を活用した持続可能な地域 づくり	中央市地球温暖化対策地 域協議会	森野 健治	中央市	30万円
14 山梨	子育て支援 楽つみ木療育・キャラバン隊活動	ピア コミュニティ nuku nuku	宮下奈津子	甲府市周辺	30万円
計					412万円



<スタート助成・3年目：5件> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 茨城	人との絆を深める音楽療法プロジェ クト 元気に暮らそう	特定非営利活動法人 リズムロード水戸	馬立 明美	水戸市、城里町、 茨城町、那珂市 とその周辺	30万円
2 栃木	自閉症支援者を支援する～支え合いの場づくり～ ステップアップに向けた活動基盤整備 3年目	あるべき支援を考える会	堀口 千恵	栃木県全域	30万円
3 東京	男性介護者支援プロジェクトⅢ 市民発 虐待ゼロキャラバン	特定非営利活動法人 杉並介護者応援団	北原理良子	杉並区	30万円
4 東京	医療的ケアの必要な重症心身障害児 を含む肢体不自由児の放課後活動	特定非営利活動法人 ひまわりProject Team	藤原 千里	新宿区	30万円
5 山梨	障害者の在宅就労促進と情報の バリアフリー化を目指す活動	特定非営利活動法人 バーチャル工房やまなし	小野 智弘	山梨県全域	30万円
計					150万円



<ステップアップ助成：5件> 活動展開資金／1団体上限100万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 栃木	虐待を受けた女性と子どもの心の回 復のための表現活動	認定特定非営利活動法人 サバイバルネット・ライフ	仲村 久代	小山市、栃木市、野木 町、下野市、宇都宮市、 さくら市、茨城県結城 市、群馬県桐生市	100万円
2 栃木	引きこもり、不登校、精神障害者の当事者及び 当該家族のためのメンタルヘルスクア事業	特定非営利活動法人 KHJとちぎベリー会	齋藤三枝子	栃木県全域	97万円
3 群馬	シェルター内外のハード面・ソフト面 の充実	特定非営利活動法人 ひこばえ	茂木 直子	群馬県内 全域	100万円
4 埼玉	一般企業の中に重度重複障害者が働 ける環境作り整備	特定非営利活動法人 コットンドリーム	綿 祐二	新座市、富士 見市、三芳町	100万円
5 神奈川	「ママのための保健室」開設による活動再構築 事業～ワンストップの子育て支援をめざして～	特定非営利活動法人 ひだまりの森	林 順子	横浜市を中心に 神奈川県全域	100万円
計					497万円

※2013年4月現在。活動名は一部変更となる場合がございます。



スタート助成・3年目／ステップアップ助成 対象案件の概要



人との絆を深める音楽療法プロジェクト 元気に暮らそう 茨城県

特定非営利活動法人リズムロード水戸

子育て支援、障がい児・者支援、介護予防、認知症予防、心身障がい予防、虐待予防、QOLの維持改善に努め、明るい生活と福祉の増進を目的に、市民に対して音楽療法の普及や音楽活動の提供に関する事業を行う団体(2010年設立)。2カ年のスタート助成を受け、「子育て支援音楽療法」の定期開催、小学校高学年と保護者を対象とした「音とリズムによる心の健康教室」に加え、福島県から避難された親子に対する音楽活動を行った。3年目は、多岐にわたる音楽療法の対象者に対応するために使用する楽譜や用具の充実をはかる。また、メンバーの募集や育成を行うことで当事者に寄り添った支援体制を構築し、さらなる活動の展開を目指す。



自閉症支援者を支援する～支え合いの場づくり～ ステップアップに向けた活動基盤整備 3年目 栃木県



あるべき支援を考える会

自閉症支援者が、職場や職種を超えて各々の現場で抱えている課題を共有し、元気に前向きに支援に取り組めるよう支え合う仕組みづくりを目的とした団体(2007年設立)。2カ年のスタート助成を受け、資金面での自立に重点を置いた活動基盤の整備を行うとともに、自閉症セミナーや定期勉強会を実施した。3年目は、自閉症セミナーの開催に加えて、定期勉強会や自閉症支援者のためのカフェミーティング「ほっとひといきカフェ(仮称)」を実施する。自閉症支援者が自ら語る「支援のちょっといい話」によって、仕事の素晴らしさ、面白さなどを仲間と共有し、自閉症支援者が、プロとしての誇りを持ち仕事に取り組めるような足掛かりとなる仕組みづくりを目指す。

男性介護者支援プロジェクトⅢ 市民発 虐待ゼロキャラバン 東京都

特定非営利活動法人杉並介護者応援団

介護者・要介護者にとっての地域のたまり場(介護者の会)づくりとその継続的なサポート活動を軸に、行政、専門機関、専門職およびボランティア等との連携をはかり、介護者支援のネットワーク作りを行う団体(2006年設立)。2カ年のスタート助成を受け、男性介護者のための「晩めし屋」、「男性介護者の会」および「土曜介護者の集い」の立ち上げと運営を行った。また、介護者が学習する機会や、介護体験の発表の機会を設けるとともに、支援者のスキルアップ研修にも努



めた。3年目は、市民発の草の根PR活動として「虐待ゼロキャラバン隊」を立ち上げ、介護者の現状を反映した劇の出前上演を行う。「男性介護者の会」の様子の再現や、認知症者に対する不適切な対応事例の模擬演技などの寸劇を上演することによって、深刻な高齢者虐待の予防と防止、介護者の孤立感の軽減、介護者の会や社会資源につなぐための広報活動を展開する。

医療的ケアの必要な重症心身障害児を含む肢体不自由児の放課後活動 東京都



特定非営利活動法人ひまわり Project Team

重症心身障がい児者の自立を目的とし、重症心身障がい児者が地域社会との接点を持ち、様々な豊かな体験ができる居場所作りのため、「肢体不自由児の放課後活動」の展開、および「工房通所施設」の設立に取り組む団体(2010年設立)。2カ年のスタート助成を受け、放課後活動や音楽療法、カラーアートセラピーなど多様な活動を展開するとともに、支援活動に携わる実習生の育成を行った。3年目は、温水プールでのリラクゼーションや音楽を聴きながらアロマの香りを楽しむなど複数の感覚刺激を取り入れた活動と作業療法の講師の協力を得て物作りの活動を行う。また、在宅の重症心身障がい児者が活動に参加できるように実施体制を整備し、引き続き実習生や学生ボランティアの受け入れを行うことで支援者の人材育成を目指す。

障害者の在宅就労促進と情報のバリアフリー化を目指す活動 山梨県

特定非営利活動法人バーチャル工房やまなし

重度障がい者が自宅に居ながらも、ICT技術を活用することで社会との繋がりを持ち、仕事を獲得することにより、社会的・経済的・精神的にも自立する支援と、そのためのICT技術の向上、利活用の支援を行う団体(2009年設立)。2カ年のスタート助成を受け、障がい者の在宅就労についてのセミナー、ICTの技術講習会の開催、山梨県下のイベントへの参加による広報活動を行うとともに、他団体とのネットワークづくりに努めた。また、紙面の情報を音声として読み取る「音声(SP)コード」の普及活動を展開した。3年目は、引き続き、障がい者の在宅就労についての理解を促進するためにチラシの作成、ホームページやソーシャルメディアの活用による広報活動を行うとともに、ICT技術を活用した在宅就労の促進と、ICT技術のスキルアップを目指した支援活動に取り組む。



虐待を受けた女性と子どもの心の回復のための表現活動

栃木県

認定特定非営利活動法人 サバイバルネット・ライフ

女性と子どもの人権を守るという視点に立ち、DV被害女性と子ども達の自立援助と地域で安全に生きるための支援活動に取り組む団体(2006年設立)。活動内容は相談事業・カウンセリング、シェルターとステップハウスの運営、病院や警察などへの同行支援、就労支援、法的支援、生活用品の提供など多岐にわたる。2011年～2012年のスタート助成を受け、3年目でステップアップ助成にチャレンジ。

2ヵ年の助成を受け、DVや虐待についてのシンポジウム・講演会等の開催やDV防止啓発冊子の作成に取組み、その成果として行政や関係機関との協働や連携が深まり、相談件数の増加につながった。

ステップアップ助成では、被害者の心のケアとして表現活動を実施し、自尊感情や自己肯定感を高めることで心身の回復を図り、地域で健康に生活できるよう支援する。またボランティアを養成するために研修を充実させ、活動を安定して継続できるように人材の育成と確保に取組み。選考委員会では、行政からの支援が届きにくい当事者のニーズに対して、きめ細やかに対応しながらも先駆的に活動を展開している点が評価された。協力者や支援者のネットワークを拡げながら相乗効果による支援力を高め、DVや虐待被害者の支援団体として、地域に根差した活動に取り組まれることを期待し応援したい。



引きこもり、不登校、精神障害者の当事者及び当該家族のためのメンタルヘルスケア事業

栃木県



特定非営利活動法人 KHJとちぎベリー会

引きこもり、不登校、精神障がい者が抱える問題の理解と支援を促進させることを目指し、当事者及び家族のためのメンタルヘルスケア事業、啓発普及活動、相談・情報提供活動、当事者居場所事業等に取り組む団体(2002年設立)。

3ヵ年のスタート助成を受け、若者の自己肯定感を育む居場所を定期的に開催したことで、参加した若者が他者への思いやりを持つようになり、小さなことからでもチャレンジする気持ちを育むことができた。さらにアルバイトに従事する若者が育つなどの成果も出ている。また父親向けの学習会(親父の会)では、若者に強い影響を与える父親が参加することで少しずつ父親の気持ちに変化が生じ、家庭内で良い影響をもたらすようになった。

ステップアップ助成では、居場所と親父の会を引き続き定期開催することに加え、2012年より検討を進めていた緩やかな就労体験の場として、貸し店舗で軽食や野菜、当事者の手作り品等の販売に取組み、就労支援施設につなげる前段階としての役割を担うことを目指す。選考委員会では、若者一人ひとりの成長に寄り添いながら活動に取組み、これまでの支援を就労につなげる事業展開が評価された。

活動基盤を安定させるためにも運営の担い手育成と資金調達に努め、団体の将来ビジョンを確認しながら、次の展開に大きく飛躍されることを期待し応援したい。

シェルター内外のハード面・ソフト面の充実

群馬県

特定非営利活動法人 ひこばえ

社会的格差に悩む女性や子ども達が自分の尊厳を保ち、安心して暮らせるような社会になることを目的に、DV被害者への面接、電話相談、グループ援助等の身体的及び精神的な支援や、一般向けの講演会や研修会を通してDV防止の啓発に取り組む団体(2009年設立)。

3ヵ年のスタート助成を受け、一般向けのDV・デートDV防止連続講座や高校生・大学生向けのデートDV防止ワークショップを開催し、広く啓発活動に取り組ん



だ。また「女性のしゃべり場(自助グループ)に関わる被害者専門サポーターのスキル習得や相談者向けの研修会なども実施し、専門的な人材育成に対しても積極的に取り組んだ。また、これまで準備してきた民間シェルターを2012年11月に開所した。

ステップアップ助成では、被害女性が自分自身を取り戻し、安心して過ごすことができる環境を整えるために、生活に必要なシェルター内の備品を揃える。またシェルター事業が着実に展開できるよう有給で常駐スタッフを配置し、さらに群馬県では初の試みとなる、DV被害者に付き添ってその立場を代弁し、擁護できる専門性の高い相談員を養成するためのアドボケート研修を実施する。選考委員会では、地域での支援が遅れていることを問題意識とし、地道に啓発活動に取組み、シェルター開所を成し遂げた実行力が評価された。地域におけるDV支援の拠点として確固たる基盤を築き、様々な分野とのネットワークを拡げながら活動を展開されることを期待し応援したい。

一般企業の中に重度重複障害者が働ける環境作り整備

埼玉県



特定非営利活動法人 コットンドリーム

知的・身体共に重度の障がいを持った重複障がい者とその家族が、日中活動の場(仕事)と生活の場(グループホーム)を確保することで、生活に広がりを持ち、自立しながら安定した生活を送れることを目的に活動に取り組む団体(2007年設立)。2011年～2012年のスタート助成を受け、3年目でステップアップ助成にチャレンジ。

2ヵ年の助成を受け、重度重複障がい者が働く場の環境整備を整えるために、作業場のトイレ及び入口のバリアフリー改修等を行い、また全ての障がい者が作業に携わることのできる『畳み機』を導入し、仕事に対する充実感につなげることが出来た。また活動の拡がりから、知的障がい者の受入れに対する要望が高まり、その受入れ体制を整えるためにスタッフの意識改革やスキルアップ研修にも取組んできた。

ステップアップ助成では、現在の作業場の移転に伴い、従来の作業場と新しい作業場の2ヶ所での運営にチャレンジし、新たな障がい者の受入れ指導や両作業所の調整等に取り組む。選考委員会では、一般企業の中で働く環境をハード面・ソフト面ともに整備し、重度重複障がい者と社会との接点を築いている点が評価された。今後グループホームの設立も目指していることから、重度重複障がい者が仕事と生活面の両方で自立を促すことができるよう、長期的な視野をもって取組まれることを期待し応援したい。

「ママのための保健室」開設による活動再構築事業～ワンストップの子育て支援をめざして～

神奈川県

特定非営利活動法人 ひだまりの森

育児や人間関係などに悩みを抱えていたり、育児に息苦しさを感じていたりする子育て期の親への支援は、子どもが健全に育つことに繋がるという視点のもと、子育て期の相談、親子が安心して出会える場の提供、子育て関連講座の開催等に取り組む団体(2005年設立)。

3ヵ年のスタート助成を受け、子育て支援者向けのファシリテーション研修や、活動への理解を深めるための子育て期の相談事例集作成に取り組んだ。この事例集を他の子育て支援機関との連携促進のツールとして活用するだけでなく、親が手に取りやすいリーフレット版も作成し、相談への抵抗感を軽減させることを期待して地域での配布を試みた。その結果、電話相談件数の増加につながり、支援団体としての認知が広がった。

ステップアップ助成では、対面相談のニーズの高まりを受け、「ママのための保健室」を開設し、相談・居場所・学びの場としての機能を備える。またこれまで分散した場所で実施してきた事業を1箇所に集約することで業務の効率化を図り、ワンストップの支援と対応に取り組む。選考委員会では、行政では対応の行き届かないニーズをキャッチし、着実にその支援に取り組んでいく事業展開が評価された。今後も他機関との連携を深めながら、利用者や地域とともに成長する組織体制を構築されることを期待し応援したい。



予備審査 担当者所感

応募を受け付けたスタート助成281件全てに対し、都県ごとに予備審査を実施いたしました。予備審査に参加した各地域のNPO支援組織と中央労働金庫都県本部の、それぞれの担当者所感を掲載いたします。



茨城県

特定非営利活動法人 ひたちNPOセンター・with you

少子高齢化という社会を迎え、地域の課題はこれからも増える一方です。現在はそれに震災も加わりました。応募用紙を読んでいると、市民としてそれらに真剣に向き合っている姿が目に見えるようで、審査には本当に悩ましいものがありました。

審査において特に重視したところは、活動に広がりがあり波及効果が期待できるか、という点でした。なかでも、助成することが「継続」につながるかどうかは最も重要視しました。

Rろうきん 茨城県本部

人・地域という視点から活動されている取組みは、どれをとっても地域社会に必要な活動を展開しており、地域の中で何が必要なのかを示唆してくれていると感じました。

各団体が地域に関わり、人に関わりながら社会を支えている活動は、高齢者・子育て支援等から地域活性化活動まで幅広い活動となっており優劣をつけられないものばかりでした。地域へのインパクトは様々かもしれませんが、応募いただいた全ての団体の更なる発展と活動を通して地域の新たな扉が開かれることを心よりお祈りいたします。



栃木県

特定非営利活動法人 ハイジ

応募団体から提案されている事業の多くは、近い将来、自治体でも取り組まなくてはならない事業であると強く感じました。特に教育問題においては、成果が実感できるまでには、長い期間がかかります。そのため、複数年度の事業計画を立て活動を継続することが望ましいと思います。

事業の継続は、当事者はもちろんのこと、地域にとっても重要な意味を持ちます。それは、地域の無関心な人の意識を変えていける可能性を持っているからです。頑張るNPOを支える市民を増やしていくことができれば、もう少し住みやすい社会になると思います。

Rろうきん 栃木県本部

今回の審査を通じて、どの団体も熱い想いを持って活動されているということを感じました。我々は書類という限られた範囲の中で、応募団体の皆様を審査しなくてはなりませんが、当然ながら各団体が助成するのに相応しいことを念頭に置き、1件でも多く熱い想いに応えるべく、審査に当たらせていただきました。

今後は更なるNPO活動に対する期待の高まりを受け、皆様の取組みに対する注目度も増していき、一層、その役割が重要になると思います。是非、我々<ろうきん>も皆様の目的達成に向けて協力出来ればと思います。



群馬県

群馬NPO協議会

今年の応募内容は、居場所づくり、雇用創出、父親の子育て参加、子どもの教育、まちおこし、映画制作など多岐にわたり、それぞれが社会のニーズに基づいた素晴らしい内容だと思いました。

予備審査では、まず、「中央ろうきん助成プログラム」の主旨に合っているか、助成金が活きるかどうか、社会のニーズがより高いと思われるもの、面白いと思える内容などを基準に判断しました。助成金でどれだけ社会の課題を解決することができるか、また多くの人に貢献できるかを具体的にアピールすることによって、共感を呼び込むことが不可欠だと思います。

Rろうきん 群馬県本部

各団体の活動は多岐にわたっていますが、どの団体も根底にあるのは人と人とのつながりをとても大切に活動されている事だと感じました。

現代社会が直面する問題、子どもたちの健全な育成・障がい者の自立と雇用・介護など、人と人との関わりが希薄になったと言われる今だからこそ、地域・団体が支え合っていくことが大事だということを今回、改めて考えさせられました。

審査にあたっては、とても頭を悩ませ、結果として、全ての応募団体へ助成できないことは残念でなりません。「ひと・まち・くらしづくり」の取組みが、これらの団体のより一層の発展に寄与できることを期待いたします。



埼玉県

特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター

「粒ぞろいの申請」というのが実感ですので、今年採択されなかった団体もあまりがっかりしないで下さい。農業、女性問題、多文化共生、子育て支援、環境、まちづくりと例年以上に様々な視点からの事業の提案がありました。

しかし、NPOは新規性や先駆性が問われますが、成果をどのくらい上げることが出来るかという実現性も大切であり、その可能性をより重視しました。採択された団体は最大4年間にわたって助成を受けることが可能なので、成果を着実に積み上げてほしいと思います。

Rろうきん 埼玉県本部

各団体から寄せられた応募書類の内容から、県内のNPOやボランティア団体の活動があらゆる分野にわたり、行政の目や制度の届かないところで取組みがなされ、現代社会が直面している様々な問題を可視化させたいという団体が多いと感じました。

応募された全ての団体が、これからも積極的に地域社会の課題に関わっていくことが重要だと思っています。今回の助成プログラムで助成対象となる団体、残念ながら対象にならなかった団体も含めて、地域で一体となった取組みが少しでも先に進むことを願っています。<ろうきん>もよりよい社会づくりのために、皆様と共に歩んでいけるよう頑張っていきたいと思っています。

予備審査

担当者所感



特定非営利活動法人 まちづくりサポートひと・まち倶楽部

地域で安心して暮らすために、今、自分達ができることを懸命にやろうとする姿が応募用紙の1枚1枚から真摯に伝わってきました。内容は子ども、高齢者、障がい者支援、環境など様々ですが、多くの人の役割や経験を生かし、地域に根差した活動になっていく可能性を感じました。特に地域で見守られながら育つ子ども達や若者に期待も膨らみました。

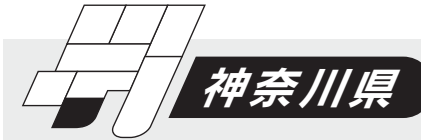
応募用紙の書き方については、今後も用紙1枚に数字やスケジュールなどに「説得力」を載せていくことの必要性を感じます。その努力は、団体の力と質の向上に繋がると信じています。

R3ろきん 千葉県本部

各団体の皆さんの活動目的・内容は、子どもたちの健全育成をはじめ、障がい者や高齢者への支援、震災復興を含む地域の活性化等、多岐にわたっており、改めてそれぞれの活動がとても貴重なものと受け止めました。

また、活動していく上で行政や地域団体との協力関係を構築し、幅広いものとなっていることが、「ひとづくり」「まちづくり」「くらしづくり」により強く結びついていくものと思います。

応募された団体の活動がさらに活発化し、充実・発展することを期待いたします。



特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき

神奈川県は都市部と自然豊かな地域と両方あることから、様々な提案がありました。応募がありましたどの取組みも大変素晴らしいものだと思います。東日本大震災後に生まれた新たな課題に対応するものもあり、時代の流れも感じます。スタート助成2年目に応募した団体も多く、どの活動も地域で必要とされている事が分かります。

この助成金を通じて、地域で取組む活動自体がさらに発展し、地域の人達がいきいきと暮らすまちにつながることを期待します。

R3ろきん 神奈川県本部

神奈川県では、地域活性化・就労支援・環境保護・育児支援など様々な分野で活動をされている団体から数多くのご応募をいただきました。

一つ一つの活動は、社会的な様々な課題に対して、主体的に関わり、その輪を広げ、全ての“ひと・まち・くらし”がよりよくあることを目指す活動であり、その果たす役割の重要性に改めて気付かされました。

日々活動されている皆様の努力に心より敬意を表すとともに、今回ご応募いただきました全ての団体の更なる発展をお祈りいたします。



東京ボランティア・市民活動センター

社会の中で制度の届かないところにある課題にアプローチしている活動や、専門家ではない人、違う領域の人、分野を超えた多様な市民を巻き込んでいくような工夫がされている応募の内容に関心を持ちました。例えば、社会とのつながりを掘り起こし・つむぎ直していけるような関係づくり、何らかの障がいや生きにくさを持っている人やまちの中の色々なことに取組んでいる人たちが集える居場所づくりなどです。

スタート助成の特徴に沿って見ると、助成金を受けた後の姿も描けている応募用紙は、広がりや発展を意識した書き方がされているため説得力がありました。活動の成果に期待したいと思います。

R3ろきん 東京都本部

東京地区スタート助成94件の「予備審査」を担当しました。地域で、行政の手がなかなか届かない分野で、どうしても必要なことをどうやって取組んでいけば良いのか、そんな悩みを持ちつつ、それでも賛同者や、担い手を増やししながら、事業を進めている姿が眼に浮かぶようです。

この種の取組みですから、どうしても財政的な面で苦勞されているかと思いますが、「継続こそ力なり」の精神で少しずつでも着実に取組んでいただければと思います。今後のご発展を期待しています。



特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会

スタート助成1年目の助成対象団体が、活動年数と支出規模の要件がある中での2年目ということで、どのくらいの応募数となるか心配でした。結果的には昨年より少し応募数は減ってしまいましたが、活動内容は社会や地域のニーズを捉えた素晴らしいものでした。

それだけに今回の助成に繋がらなかった団体には、実現できるよう諦めずに取り組んでいただきたいと思います。そして、それぞれの活動を通して、人と人のふれあいや心と心のキャッチボールができる出会いと居場所が生まれ、ボランティアリズムを大切にしたい地域づくりをされていくことを願っています。

R3ろきん 山梨県本部

応募いただいた団体のみなさんの応募書類を拝見させていただきまして、それぞれの団体が多くの課題を抱えながらも、少しでも地域を良くしていきたい思いで、積極的に活動しているのを改めて知ることができました。

今回、予備審査する中で、地域に貢献する活動をしているか、活動を通じて人も組織も成長しそうか、助成後も活動の発展性があるか、などを特に重視し審査しました。最後に、ご応募いただきました各団体の更なる発展を祈念いたします。

本審査

選考委員 所感



各地域の予備審査を経て、選考委員会を開催いたしました。
6つの選考基準（地域貢献性、独創性、実現性、参加性、成長性、発展性）
に基づき選考にあたった、各選考委員の所感を掲載いたします。

東京労働者福祉協議会 会長 遠藤 幸男



10年ひと昔と申しますが、中央ろうきん助成プログラムが、“ひと・まち・くらし”づくりにチャレンジしている多くの地域の団体に資金的支援を始めてから11年目の選考が完了しました。今年も大変多くの応募があり、それぞれが真剣に深刻な課題に向き合って活動しているだけに、選考委員がそれらの活動に甲乙をつけることは極めて難しい作業でしたが、基本的な選考基準をふまえて対応させていただきました。

昨年は国連が定めた「国際協同組合同年」として、全世界的に協同組合が中心となって、「支え合い・寄り添いの社会」実現の取組みが繰り広げられましたが、国際協同組合同盟（ICA）は、2020年に向かってさらに挑戦をしていくとの宣言が採択されています。応募された皆さんの活動は、私たちが直面している「社会の様々な矛盾」（世界中に拡大進行している格差と貧困を起因とする現象）に立ち向かっている活動であり、今回、初めて助成を受けることとなった団体をはじめ、スタート助成2年目及び3年目、そしてステップアップ助成の皆さんには、引き続き、自らの活動に自信を持ち、さらに質的向上を求めて、その崇高な活動を粘り強く展開していただきたいと思っております。

つくば市民大学（ユニベルシタスつくば） 代表幹事 徳田 太郎



ひとをつくり、まちをつくり、くらしをつくる。決して容易なことではありません。その困難に対して前向きに、そしてしなやかに取り組もうという皆さんの思いと行動に触れ、あらためて勇気づけられました。ありがとうございました。

どのような活動も、人が生みだし、育てていくものです。その観点から、選考にあたっては、担い手の〈かかわり方〉に注目しました。その中でも特に重視したのは、〈ために〉ではなく〈ともに〉という「あり方」と、〈とじる〉ことなく〈ひらく〉という「やり方」です。

前者は、主に受益者やボランティアとの〈かかわり方〉です。「～してあげる」や「～させる」という意識ではなく、ともに学び、成長し、地域をつくっていく、そして対等なパートナーとしてかかわりあう、そのような姿勢が感じられる活動を高く評価しました。後者は、もう少し広く、地域との〈かかわり方〉を指しています。自分たちだけで活動を完結させるのではなく、担い手の輪を広げていくこと、そのために、世代や所属を超えて多くの人を巻き込んでいくための仕掛けや、効果的な連携・協働を実現するための仕組みを高く評価しました。

助成が決定した団体は、それぞれに工夫をして、充実した〈かかわり方〉を模索しています。ぜひ、互いに学びあうことで、ともに希望に満ちたあたらしい社会を築いていきましょう。

一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事 星野 智子



今年もたくさんの熱心な活動の様子を申請書から多く拝見することができました。地域の人たちが自ら社会課題を見つけ、周囲の人と助け合って活動を生み出そう、継続しようという思いが伝わってきました。

その中で、社会課題としてあまり注目されていないけれども大事な問題や、一般的な理解を得にくい活動などについては選考委員の皆さんとより議論をしました。

環境保全の活動についてもいくつかありましたが、その地域の自然環境や生態系が守られるだけでなく、その活動のノウハウや成果が他の地域でも活用できたり、お互いに学び合えるような活動につながるとなお良いのではないかと考えながら、審査させていただきました。他の分野でも同じように発展性や社会への影響力をよく検討しました。

継続案件では、小さな資金でも大事に使い、仲間を増やしているとわかるような活動が多く見られました。活動の一步を後押しするように助成金が活用されていると、次の活動の展開も楽しみになります。人と人との出会い、助けあって活動する協働の輪（パートナーシップ）が一つでも多く生まれるよう、今後の活動の発展を祈念しています。

一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団 チーフ・プログラム・オフィサー 吉野 裕之



助成プログラムは、単にボランティアグループや市民団体に活動資金を提供する仕組みではありません。助成組織が考えるこれからの地域や社会のあり方に共感するグループ・団体が、それぞれの地域で具体的な活動を行い、その考え方に形を与えていく、つまり、資金提供をきっかけに、役割分担をしながら地域への働きかけを実践していくコラボレーションなのです。

そのためには、お互いの十分な理解が必要です。応募要項と応募用紙は、グループ・団体の活動の意義や可能性を目に見えるようにするためのものです。ですから、応募にあたっては、応募要項に書かれていることの意味を十分に考え、応募用紙に書くべきことの内容を十分に検討していただきたいと思っております。意味のない活動はありません。大切なのは、その意義や可能性をより多くの方に知っていただくことです。

選考を通して、地域や社会の課題に向き合う多くの活動に出会うことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。常識を大切にしながら、しかし常識にとらわれない、そんなしなやかな心をもって、地域を、社会を豊かに耕していきましょう。

中央労働金庫 総合企画部CSR企画 チーフマネージャー 岩村 真奈美



今年をはじめ、選考委員として関わることになりました。

昨年よりスタート助成1年目助成対象団体の応募要件を、おおむね設立5年未満・支出規模500万未満（直近年度実績）の団体を主な対象と変更したため、応募件数に影響があるのではないかと不安がありましたが、昨年とほぼ同じ288件の団体よりご応募をいただき、本プログラムが多くの皆様に認知されていることを実感するとともに、選考委員としての責任を強く意識しました。

団体の皆様の思いが詰まった応募用紙から、地域や今の時代に生じている課題に取り組む姿を想像し、市民活動の必要性和重要性を認識すると同時に、本プログラムを通じて金庫が地域とつながっていると実感しました。また、選考を通して、自分がこれまで関わる機会がなかった問題や課題を知ることができ、視野が広がったような気がしています。

採択された団体の皆様には、単年度だけの取組みではなく3年後、あるいは5年後の団体像を思い描き、その実現に向けた活動を続けていただきたいと思います。金庫はそんな皆様の活動を見守り、応援いたします。



〈対象地域〉
関東エリア1都7県

〈2013年〉中央ろうきん助成プログラム 応募要項

応援します！個性が輝く “ひと・まち・くらし”づくり

市民活動の新しい芽を、最長4年間支えます。

「ひと」が、それぞれの地域で喜びと誇りを持って働き、活動し、共にいきる――。
私たちは、そうした人間味ゆたかな社会の実現をめざし、個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくりをテーマに助成を行います。
このプログラムでは、関東エリア1都7県を対象に、未来の財産となる「ひと」を育て、魅力的で住みよい「まち」をつくり、多様な生きかたを認め合う「くらし」を実現する活動を応援します。
特に、財政規模の比較的小さい団体を対象とし、これからはじまる活動をじっくり支えるプログラムとなっています。
それぞれの地域で活動しているボランティアグループや市民団体からの応募をお待ちしております。
なお、このプログラムは、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドの協力のもとに実施しています。

中央ろうきん社会貢献基金

※「中央ろうきん社会貢献基金」は、中央労働金庫が社会貢献活動の推進を目的として、2002年4月に設立した基金の名称です。

1 対象分野

下記の3分野を対象とします。
(複数の分野にわたって取り組む活動も歓迎します)

- (1) ひとづくり：
未来をにう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動 など
- (2) まちづくり：
生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動 など
- (3) くらしづくり：
地域に生きる人が、さまざまな障害や困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動 など

2 重視する活動

- (1) 自らの地域をよりよくするために、さまざまな人が自発的に参加する活動
- (2) はたらく人が、自らの経験を活かして参加する活動
- (3) 地域のさまざまな団体が連携し、参加する活動

3 応募期間

2013年1月4日(金)～2013年1月16日(水)〈必着〉

4 助成対象期間

2013年6月1日～2014年5月31日の期間に行われる活動を助成対象とします。

5 助成対象団体

- (1) 1都7県(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川県、山梨)を主たる活動の場としているボランティアグループや市民団体(NPO法人等)
※上記エリア内で、広域的に活動を行っている団体も対象とします。
- (2) スタート助成は、おおむね団体設立から5年未満(任意団体期間含む)であり、支出規模500万円未満(直近年度実績)の団体を主な対象と想定しています。
- (3) ステップアップ助成は、スタート助成で3年または2年にわたって助成を受けて活動を行った団体が対象です。

6 助成内容

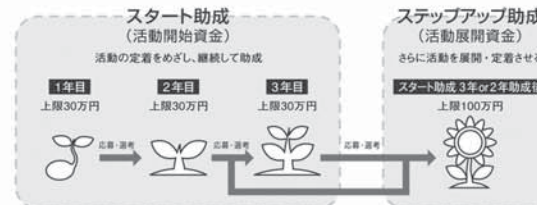
助成総額は概ね2,000万円です。〈*1〉
このプログラムは、地域で新たに活動が開始され、その活動が定着することを願い、最長で4年の助成を受けられる仕組みです。

(1) スタート助成(活動開始資金)

- 1団体 上限30万円
- ・新たな活動を開始するための助成で、団体の活動実績を問いません。
 - ・活動の定着まで最長3年にわたって継続して助成を受けることができます。但し、年ごとに応募し、選考を受けていただきます。

(2) ステップアップ助成(活動展開資金)

- 1団体 上限100万円
- ・「スタート助成で3年または2年にわたって助成を受けて活動を行った団体」が、さらにその活動を展開・定着させていくための助成です。



*1: 助成総額には、「ろうきんサンスポイント貯めCiao!」の「社会貢献コース」をお選びいただいた皆様からのご寄付が含まれています。

7 対象費目

スタート助成では、活動に必要な直接経費の他、助成額の30%まではスタッフ等の人件費も含めることができます。(なお、ステップアップ助成では、人件費や事務局諸経費などについての上限は特に定めません。)

8 選考方法

選考は下記の選考基準に基づいて選考委員会にて行います。

- (1) 地域貢献性：住みよい地域を実現するもの
- (2) 独創性：新しい試みに挑戦するもの
- (3) 実現性：計画の意図や内容が実現できる可能性の高いもの
- (4) 参加性：2に記載の【重視する活動】を参照
- (5) 成長性：活動を通して人も組織も育つもの
- (6) 発展性：助成後も活動の発展があり、波及効果が予想されるもの

中央労働金庫(中央ろうきん)

労働金庫(ろうきん)は、労働組合や生活協同組合のはたらく仲間が、お互いを助け合うために資金を出し合ってきた協同組織の金融機関で、はたらく人たちの暮らしを支え、快適で過ごしやすい社会づくりをめざしています。中央ろうきんは全国に13ある労働金庫のうちのひとつで、関東エリア1都7県を対象に事業をしています。

9 「応募要項・用紙」の入手方法

「応募要項・用紙」は以下のいずれかの方法により入手できます。

- ① Webサイト (<http://www.rokin-ikiiki.com/>) からダウンロード。
- ② 最寄の中央ろうきん窓口。
- ③ 12月11日(火)に東京にて開催される「助成金セミナー」への参加。(詳細は上記①のWebサイト参照)

10 応募方法

応募書類(所定の書式による)のみ、折りたたまずに、郵便にてお送りください(持ち込み不可)。なお、選考過程で、必要に応じて聞き取り調査の実施や団体の定款・事業報告書などの提出をお願いすることがあります。

※お送りいただいた書類は返してきませんので、送付前に必ずコピーをとっておください。

11 選考結果

選考結果は、2013年4月末までに文書にて連絡いたします。なお、採否に関するお問合せには応じられません。

12 助成決定後について

- (1) 団体名、代表者名、所在都県名、活動名、活動概要、活動対象地域、助成金額を公表します。
- (2) 覚書を「中央ろうきん社会貢献基金」と締結し、それに基づいて活動していただきます。
- (3) 贈呈式(2013年5月開催予定)にご出席いただけます。
- (4) 中間報告書と完了報告書をご提出いただけます。
- (5) 中間報告会(2014年2月開催予定)にご出席いただけます。
- (6) 中央ろうきんの社会貢献活動に関する広報活動にご協力願います。

応募書類送付先・問い合わせ先

中央ろうきん社会貢献基金
(中央労働金庫総合企画部内) 担当: 岩村・荒原
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5
フリーダイヤル: 0120-86-6956 (平日9時～17時)
URL: <http://chuo.rokin.com/>

本プログラムで取得する個人情報につきましては、助成金の選考に必要な範囲で利用し、当基金が責任をもって厳格に管理を行い、担当事務局(中央ろうきん社会貢献基金、中央労働金庫、市民社会創造ファンド)、および選考委員・予備審査担当者以外の第三者に提供することはありません。

特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

日本の非営利セクターの発展を願い、NPOへの望ましい資金循環の実現を図るために日本NPOセンターの活動を継承して設立した組織です(2002年4月発足)。市民活動やNPOへの助成プログラム等の企画・運営などを行っています。
<http://www.civilfund.org>

応募用紙 ※2013年(スタート助成・1年目)用

【P1】 スタート助成（1年目）

【事務局使用欄】 通番： 受付番号：13-ス①- - -

2013年中央ろうきん助成プログラム応募用紙

■ 団体概要 記入日 2013年 月 日

団体名	団体住所		
代表者	年齢	氏名	ふりがな
担当職	性別	年齢	職名
代表者	年齢	氏名	ふりがな
代表者	年齢	氏名	ふりがな
代表者	年齢	氏名	ふりがな
代表者	年齢	氏名	ふりがな
代表者	年齢	氏名	ふりがな
代表者	年齢	氏名	ふりがな

■ 応募内容

活動名	対象分野	
対象分野	1. ひとづくり	2. まちづくり
対象地域	都道府県	市区町村
応募担当者	氏名	ふりがな
担当者連絡先	電話	FAX
	E-mail	日中の連絡先(電話)
応募金額	万円 (上限30万円・1万円未満切替)	

■ 今回応募する活動の目的と概要 (10行以内でご記入ください)

【P2】 スタート助成（1年目）

【事務局使用欄】 通番： 受付番号：13-ス①- - -

■ 今回応募する活動の具体的な内容 (10行程度で、簡単に記入ください)

■ スケジュール

年・月	活動の内容など (内容がわかるよう具体的に記入ください)
2013年6月～	
2014年6月以降の展開	

【P3】 スタート助成（1年目）

【事務局使用欄】 通番： 受付番号：13-ス①- - -

■ 活動の実施体制

氏名	世代	活動における役割	活動対象地域との関わり
			(居住・仕事・その他)
			(居住・仕事・その他)
			(居住・仕事・その他)
			(居住・仕事・その他)
			(居住・仕事・その他)
			(居住・仕事・その他)
			(居住・仕事・その他)

■ 応募金額内訳 (応募する活動を実施するために助成を必要とするもののみをご記入ください)

費目	内容 (単位・数量など)	金額 (単位：円)

■ 他の助成等について (今回の活動と同一または関連する活動で、今年度応募のものに限ります)

他の助成等への応募	1. あり (ア、結果まち イ、助成決定) 無ありの場合は、(イ)の欄に○を印してください。	
応募先団体名	2. なし	
応募金額/決定金額	円 / 決定金額	円
実施期間	年 月 ~	年 月

「中央ろうきん助成プログラム」協力団体

- <企画・運営>
- 特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド <http://www.civiltfund.org/>
- <広報・予備審査・選考>
- 特定非営利活動法人ひたちNPOセンター・with you <http://www12.plala.or.jp/NPOWY/>
 - 特定非営利活動法人 ハイジ <http://blog.canpan.info/npo-heidi>
 - 群馬NPO協議会 <http://gunma-npo-kyougikai.way-nifty.com/>
 - 特定非営利活動法人さいたまNPOセンター <http://www.sa-npo.org/>
 - 特定非営利活動法人 まちづくりサポートひと・まち倶楽部 <http://hitomati.net/>
 - 東京ボランティア・市民活動センター <http://www.tvac.or.jp/>
 - 特定非営利活動法人ぐらす・かわさき <http://www.grassk.org/>
 - 特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会 <http://www.yva.jp/>

ろうきんは、働く人を応援しています。

- ろうきんは、働く人のための非営利の金融機関です

ろうきんは、働く仲間がお互いを助け合うためにつくった、協同組織の金融機関です。国内に金融機関はたくさんありますが、働く人とその家族の暮らしが豊かになることを目的につくられた金融機関は、ろうきんだけ。営利を目的とせず、公平・民主的に運営され、全国で1,000万人の方々に利用されています。
- ろうきんは、生活者本位に考える金融機関です

ろうきんは、働く人の暮らしを第一に考え、預金やローンなど商品や各種サービスを提供しています。みなさまの大切な預金は、住宅・教育・マイカーなどの資金として、働く人の暮らしを守り豊かにするとともに、NPO活動の促進に向けた支援など、安心・安全な社会をつくるために活かされています。

ろうきんは、NPOを応援しています。

ろうきんは、人々が共生できる社会の実現に貢献することを理念に掲げています。新たな公益の担い手として期待されるNPOを、金融サービスと福祉運動の両面から幅広く応援しています。

- ろうきんNPO事業サポートローン

2000年に国内金融機関初のNPO法人向けの融資制度を創設し、1都7県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川県・山梨)で活動するNPO法人を対象に、運転・設備資金などを融資しています。
- ろうきん社会貢献 WEB「いきいきコミュニティ」

社会貢献活動を応援するWEBサイトです。職場や地域で活躍する人や団体の紹介、ボランティア情報やコラム、セミナーのご案内など盛りだくさん。働く人の社会参加、学びと交流を応援します。 <http://www.rokin-ikiiki.com/>
- 中央ろうきん助成プログラム

ボランティアグループ・市民団体(NPO法人等)を対象に、新たな地域活動のスタートとその定着をサポートする、最長4年の助成制度です。活動開始資金のスタート助成が上限30万円、活動展開資金のステップアップ助成が上限100万円。ステップアップ助成は、「スタート助成で3年または2年にわたって助成を受けて活動を行った団体」を対象としています。テーマは「ひと・まち・くらしづくり」の3分野です。
- 非営利セクターとのネットワーク

労組・生協・NPOなど、職場や地域の非営利団体と連携し、働く仲間や市民活動に関わる人に役立つセミナーや各種イベントを主催・協賛しています。